

循環器グループ

2015年3月更新

特徴

- 先天性心疾患に関しては、胎児から成人までを対象としており、産婦人科、循環器内科と連携して治療に当たっている。
- 心臓カテーテル検査は年間71例行い、心臓カテーテルによる治療も年間13例に行った。動脈管開存に対しての心臓カテーテル治療も6例行い、全例成功した。新生児の重症の先天性心疾患もNICUで治療している。
- 胎児心臓超音波検査を年間70～80例行っている。
- 川崎病は急性期の入院例が年間約70例あり、ハイ・リスク児にグロブリン治療を行い、更に重症な児には血漿交換療法を行なっている。川崎病の1ヶ月時の心障害率は1.4%（全国平均7.0%）であった。
- 重症心筋炎に対しても人工心肺による補助循環を行い救命している。

循環器(緑)グループで (一般小児科以外に)習得してもらうこと

- 川崎病の診断と治療ができるようになる。
- うっ血性心不全の管理ができるようになる。

検査実績

	2008	2009	2010	2011	2012	2013
心臓カテーテル 検査	63	70	50	74	75	82
インターベンション	12	8	7	13	14	4
胎児エコー	34	25	27	61	86	71
心臓超音波検査	－	－	1023	1985	1997	1416

川崎病定型例の年代別 入院例数と冠動脈障害例数

	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
症例数	43	51	56	56	44	71	65	62	91	86
急性期冠 動脈拡張	4	7	5	6	0	11	12	20	11	11
発症1ヶ月 冠動脈拡張	1	3	0	3	0	1	3	1	2	1
1年後の 心後遺症	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0